

ラトビア首相一行と経済協力について意見交換

ラトビア共和国のマーリス・クチンスキス首相一行と、横尾敬介副代表幹事・専務理事、欧州・ロシア委員会、および経済連携タスクフォースの委員が2017年12月7日、日本とラトビア共和国の経済協力に関して意見交換をした。

ラトビア共和国は近年、欧州連合(EU)での存在感を高めている。バルト3国の中央に位置し、首都リガなどの港湾都市は中・東欧への玄関口を担ってきた。今後、日中を含むアジアへの一大物流拠点となることが期待されている。また、高速インターネット回線の整備や、ビッグデータ

を活用した林業効率化など、官民一体のICT支援も注目を集める。

懇談では、ラトビア共和国で喫緊の課題が、日系企業と同様、物流やICTなどの主要産業を支える高度スキル人材の育成であると確認。両国が、教育機関を含む人材交流の活性化で協力すべきとの認識を共有した。

クチンスキス首相と握手を交わす横尾敬介副代表幹事・専務理事

